

ル4
門號卷
4695
7

早稻田大学図書館
昭和36.6.21購入
藏書



門號

卷

7

竹林院 晴の社より御あみ社全圖奉ひ社當院より
宮坂町をもく喜蔵院の次小あり
義経追討の
書簡うり 射佛教流の一巻あり 岩崎佐磯の内射佛乃
書

釋書白日藏
二丈の時坐りて道賢法師とくそとくらむ
公歎く延喜十六年二月十九六年の精修分經らきとくに其時母君乃
やゆいのかりにかくのうへく故卿より東寺より密教がまひ
其原を解ふよ入て壁窟小

假経じとくや
布引の施主ある相より谷の庵まこと

布引の施主ある相より谷の庵まこと

天皇橋 天皇櫻 梵天社 総

雨師模観音堂

け里へ丹生の川上緋ひしのくを晴よ又月雨乃を

はふうり一里うちり川下小丹生町作の事うり
觀音堂ふるく西の谷よ勝井塔

竹林院 晴の社
宮坂町をもく喜蔵院の次小あり
義経追討の
書簡うり 射佛教流の一巻あり 岩崎佐磯の内射佛乃
書

釋書白日藏

二丈の時坐りて

道賢法師とくそとくらむ

公歎く延喜十六年二月十九六年の精修分經らきとくに其時母君乃

やゆいのかりにかくのうへく故卿より東寺より密教がまひ

其原を解ふよ入て壁窟小

假経じとくや

布引の施主ある相より谷の庵まこと

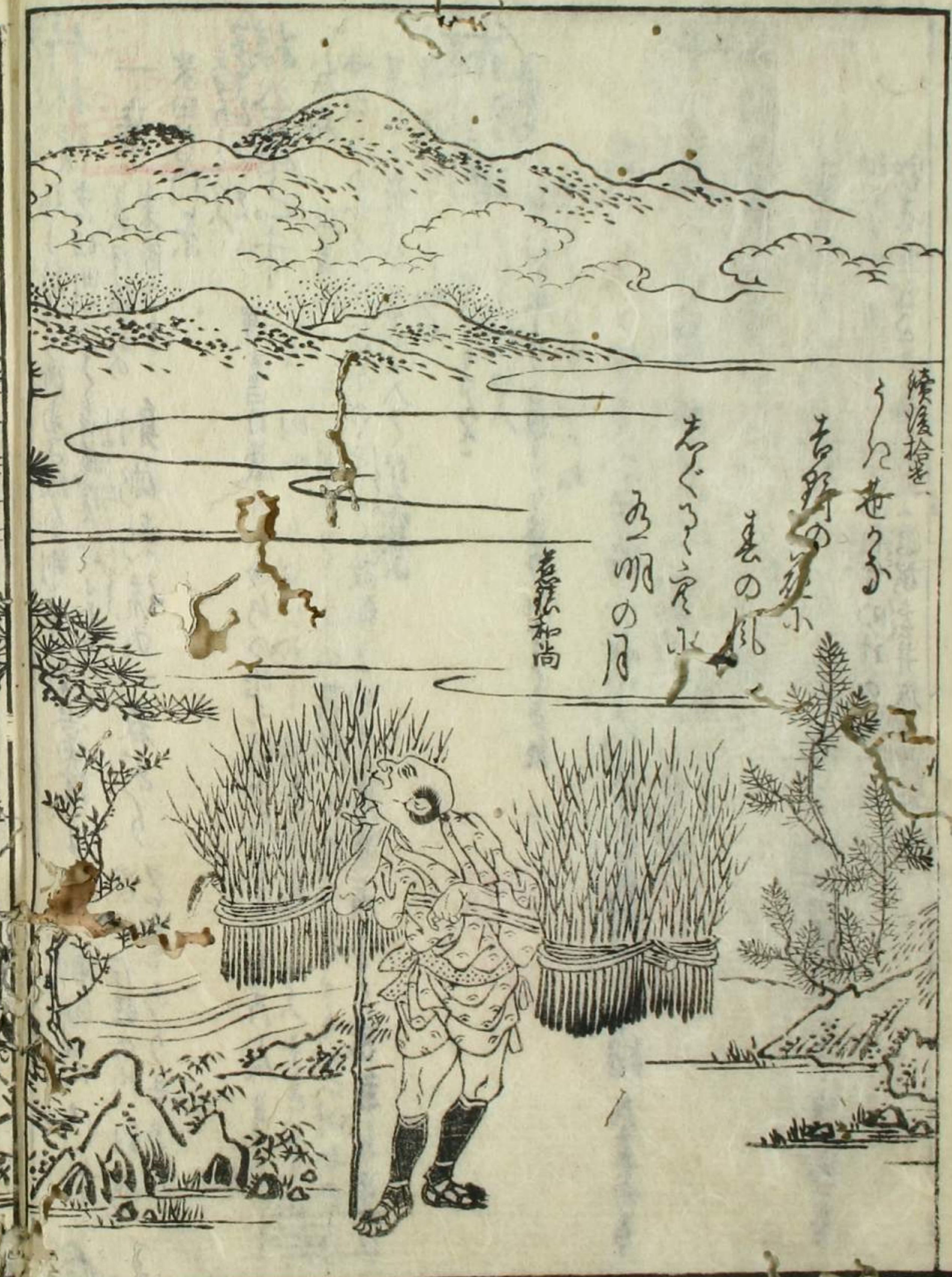
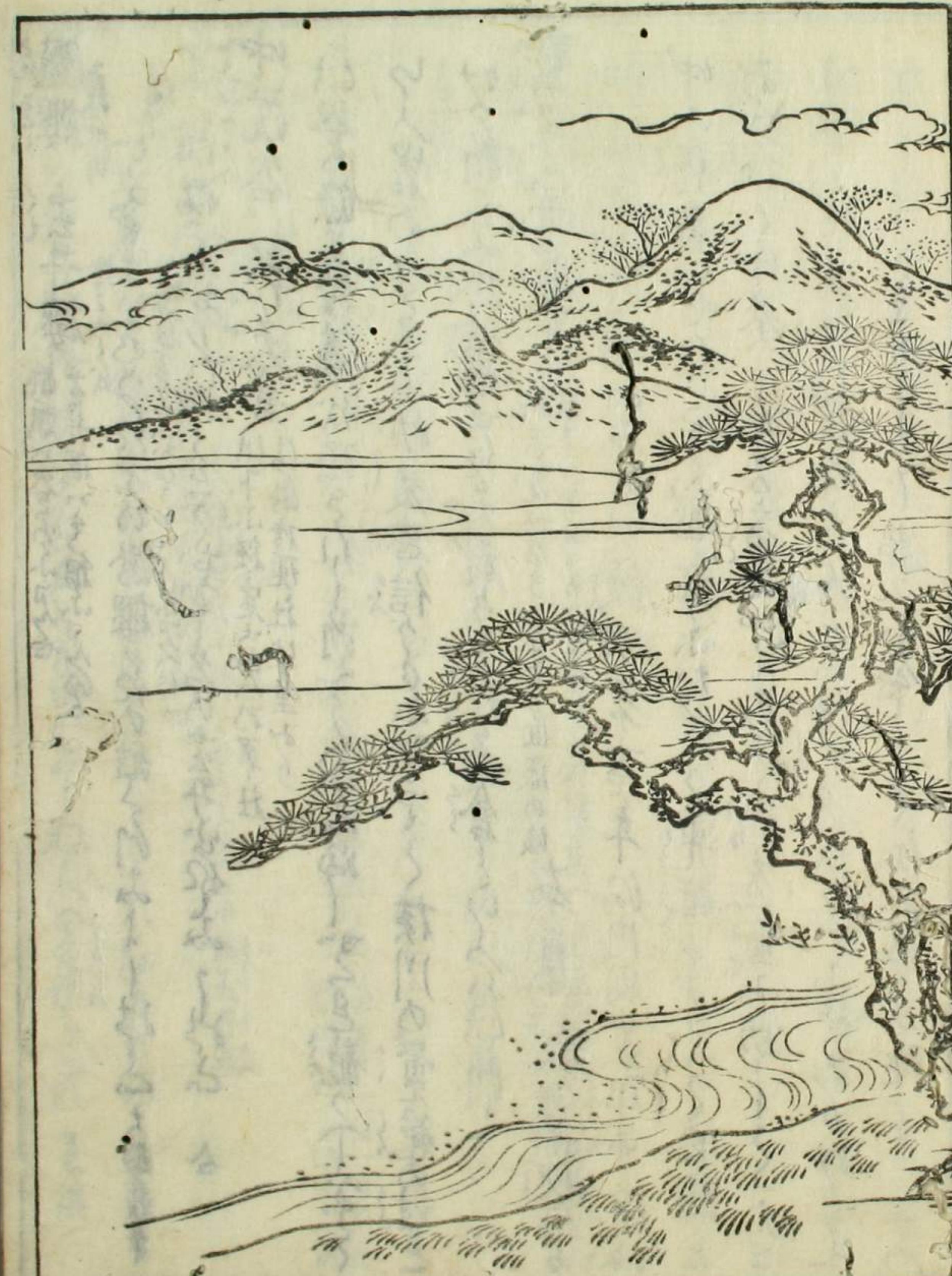
天皇橋 天皇櫻 梵天社 総

雨師模観音堂

け里へ丹生の川上緋ひしのくを晴よ又月雨乃を

はふうり一里うちり川下小丹生町作の事うり

觀音堂ふるく西の谷よ勝井塔



龍櫻

玄井櫻 懸櫻ハ谷口小川也
玄井源ハ多羅小川也

卷之三

古事記
シカモリとひめ子の櫻の峰みよし山
玄蕃名をひく
アラスガ

中院谷
花矢倉
山下小保定
大内軍社
法勝院社
牛堂あり

卷之三

け父の源義徳身が源氏の勢を小とゆきと龍下さく
りよるありて古付後忠信がゆく少く様川の観音の道
けの跡の忠信ゆきと大尉タクル花多金とゆくは跡

鷺尾と世尊寺
柳子尾坂の道小わり画旅の後
歌をうりうり堂うり
本尊は歎跡梯夜侍も

阿翁近來之行其有清人欽佩者十幾年以內固象牙茅渟海
中一小村高丘之上有雷聲乍大乍小光赫然自日落而

あざむくは奉手より事あらみ満毛のやうに直小勅

めらる直界海入の事の樟木のひづれ小枝ありけり是
とよりては佛工今レニ作一駒が北アシタニ

今の大師うち乃様本の佛像是也
日率ひのそくに御事はる方のそしりゆふと

釋迦塔ノ右鐘あり銘曰保延六年十二月播磨守平朝臣
不盛云

皮盛云し前と靈廟と御子の事
日清集

居の尾 花多金の
麿の尾 ひと
傍小やり

守祖神大宮ニ座
原建社極矣繫ノトモア歎のきれハ乃所永徳の事也
よ根集
吹きそよぐ芳此の秋旁小すゑう風也人也神風

春紀
みよのくゆとみよもとすまの宮めぐれとて
春
申同告解公人計向の
春
毎年正月一日の花

牛頭天王神信其一
高第生人遺像堂供職法も上人の
終もとく今余

高城と俗小城とといふ大塔宮とお義とせりと妙法庵及忠信
虚殿がまくらしもじふとひ代へけ

一ノ葉が吹くと、秋の匂いが
立派な木立の、谷へさへ
あらすじで、かわいらしい
落葉も、秋の匂いをもつて
落ちて、秋の匂いが、

躑躅岡遙谷

高岸なり はくとうをとくをもとむとくはまく

わ小あやとお井の水もとすか井のつへ圓の水をもとれて 無言韻章

そろうの谷へとくた谷とく作へ 一卷

日

ちわづりをとるうの谷井戸もとすとよすとくの山

岩倉谷

相對すり草木

金精大明神社 神名帳曰金峯神社吉那との地主神 金御嵩の號
又同年の秋八月頃賜とて恩法立穀からひすくとんくふ
志を後宗山賤滿無朝に人を宣勅公卿の間傳うる事がく
いはれめかりく心のまこと清潔の地がくじめ相傳うる事く吉
那の高とく 二代室姫小野久より當社を吉那ハ大神の才一
高とく 金家と寺の眞宇

金御山獄

吉那との一名うりえの寺とすの寺とすとくとく

拾放者金事をとみず黄金事と急尊すあ世の財圓淨提の塔の發

あとく藏王権現のゆりとせきとと繕信昌堂武帝の所

信

修正け丁の金を深んとを金剛藏王かくしやくと

信

四つ落十條小をとほりと病あけの苦念がくありと病小うちわす

信

小金獄と文字あくわすと字治拾者小野久より

信

夫木 古事記の川上がア倍世の金御山獄小野久より 小野久
神のすくらんの井戸とのすくらんの井戸と 信 實

信

蹠ぬけれ塔は塔と能深の道に建とくへ義経は塔の内小屋れーと款

信

逃げてとくとくが蹠りとくとく下谷宮殿のゆゑへ落りキモリ下り

信

飯高と安禅寺寶塔院本尊と一丈の藏王権現又役行者の遺像

信

が安善寺と奥院四面正方堂 奥ふわり
其傳小藏王堂あり

信

青根我安 安徳のうきとおとせ下小野久とくとく義経とくとくが井

信

も撰とくとく前吉東の谷小義経あり一時竹がたれて命へまく下野

信

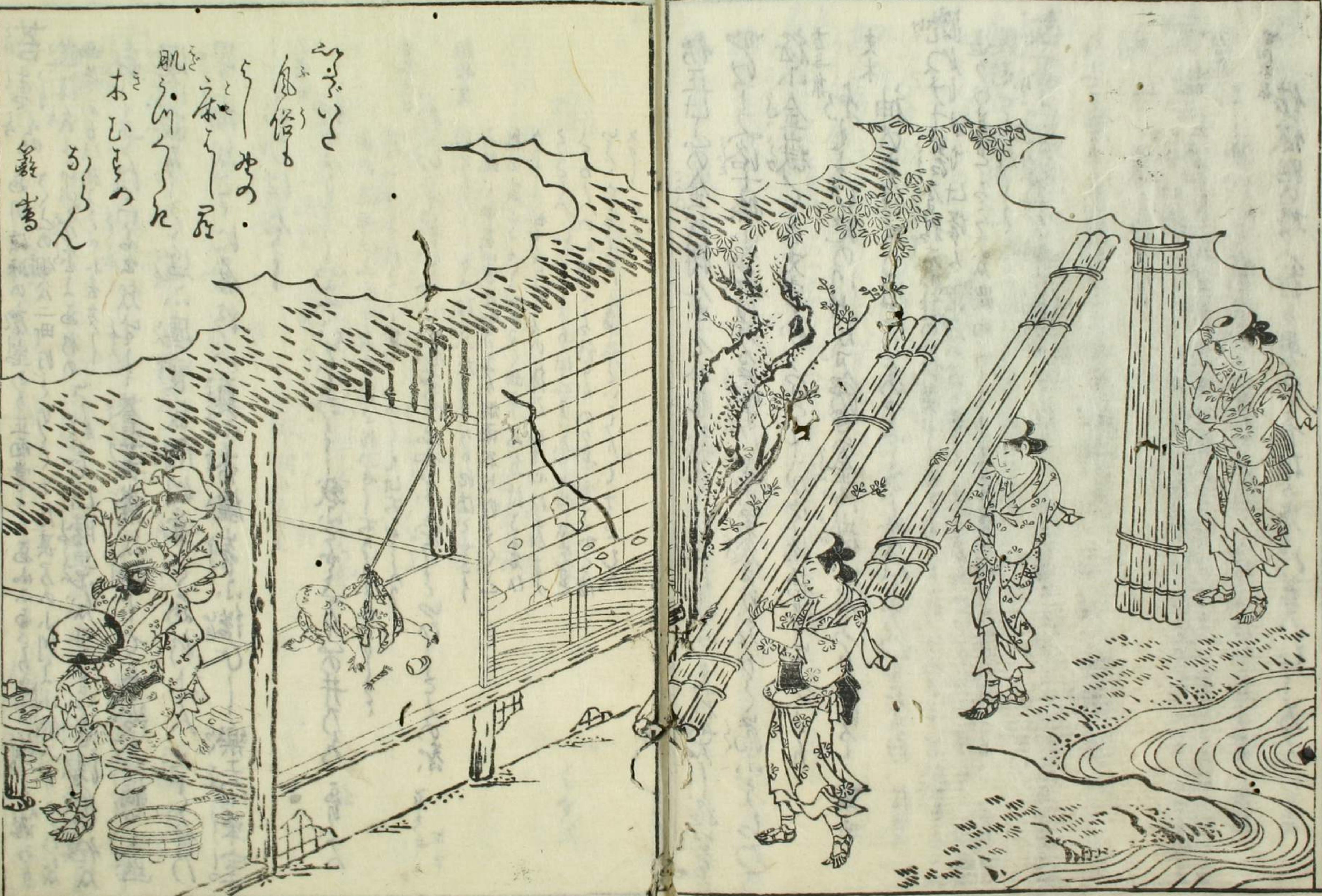
トとく門いとくの波小うるさにや青根が安寺へ消り去るを

信

佐保沼の村と跡を奥と青根が安寺へ去るを公実

信

川太布



義
人

肌を
角を
おひき
りん

之家集

西行法師は、少くともわざと仕かへてお入りと申す
花ちりあはと、うみのこも見せぬあらん

泊船集

山源くわきやにゆきあり烟雨谷がむとく
鶴の家をとよちひそく西すあふはるるひ
くつこむらを院との鐘乃聲心れ處す
くわきや人のおゆくも竹のくと齊一ゆく
くわきや彦士乃庵といもんとたよもく
くわきや

あつや小一
彦久

居あくとれふことせよやかの事
西上人のまはいやりの奥の境
より右の方二町を歩り程半人の
道のみで山へとこゝれ
谷が急ぐあいと多く往
ゆくに今ももく
未だ

路シテノアリハ世セモカウガヤ
若ヒトニ是シテ技テクニ業ウエ小シタ伯ハタケ夷イわバハハシシ
口ヒトツかカモモくムくクとト許マサニ由ヨ小シタ生シタ產タマ

A

瀟洒とすが小波干れはあが
苔薄れに外小舟とて
挂冷瀑布（かのう）五百丈
け瀧（たき）を峨（が）岩（いわ）張（はり）高（たか）八十
丈あり巖（いわ）の間小洞（くどう）ありけ岩（いわ）のめぐりが妙玲（めうりょう）小跡（あと）
りあつてむじやく壇（だん）が瀧（たき）うらとあるやうに瀧眼（たきがん）が瀧（たき）とまわる
全

さきへ一時のうへあらわが琵琶とてくせに歌のまか音無ゆるよ
名前あるか川を紀物然那小あり

名前のあるか
内々紀別姓那小あり

かのゆの少 独猪コトヒコ
うひの少 待也マサニ
そのあぬと 其帆チハ
わらわのくい 蜡蛉ワラワノクイ
謂仕トシ もえ
かづきち 名形ナミガ
入置トス もえ
わらわやゆワラワヤユ 昆虫ムツウ
也 大君オノミコト
かづきひ 大和也オハタコト
わらわからひ 秋津アキツ
かづきひ 大和也オハタコト
づけあひ しづのあつくあ畠アツクアハタ
づけあひ 日本紀ニホンノキ

新編撰
續千載
草堂集
遺言
覓言

智了と善慶ふるくせげりあるとみよか下よりると
玄妙けりけり夕自火をすうびりあるとあへ風を涼れ
或曰クナリの小野アリもの岡又アリもの小野アリの野邊かど
頭昭曰サガラガ秋津と漢へ移れとあるもの小野アリの野邊かど
いもれかくあまめと
御嶽山の上の方小あり怪石嵯峨巖多
白倉山と申小岩窟あり
無名川と申古御川小庵けは川ニニ町のあつこと
題事異とレヒは

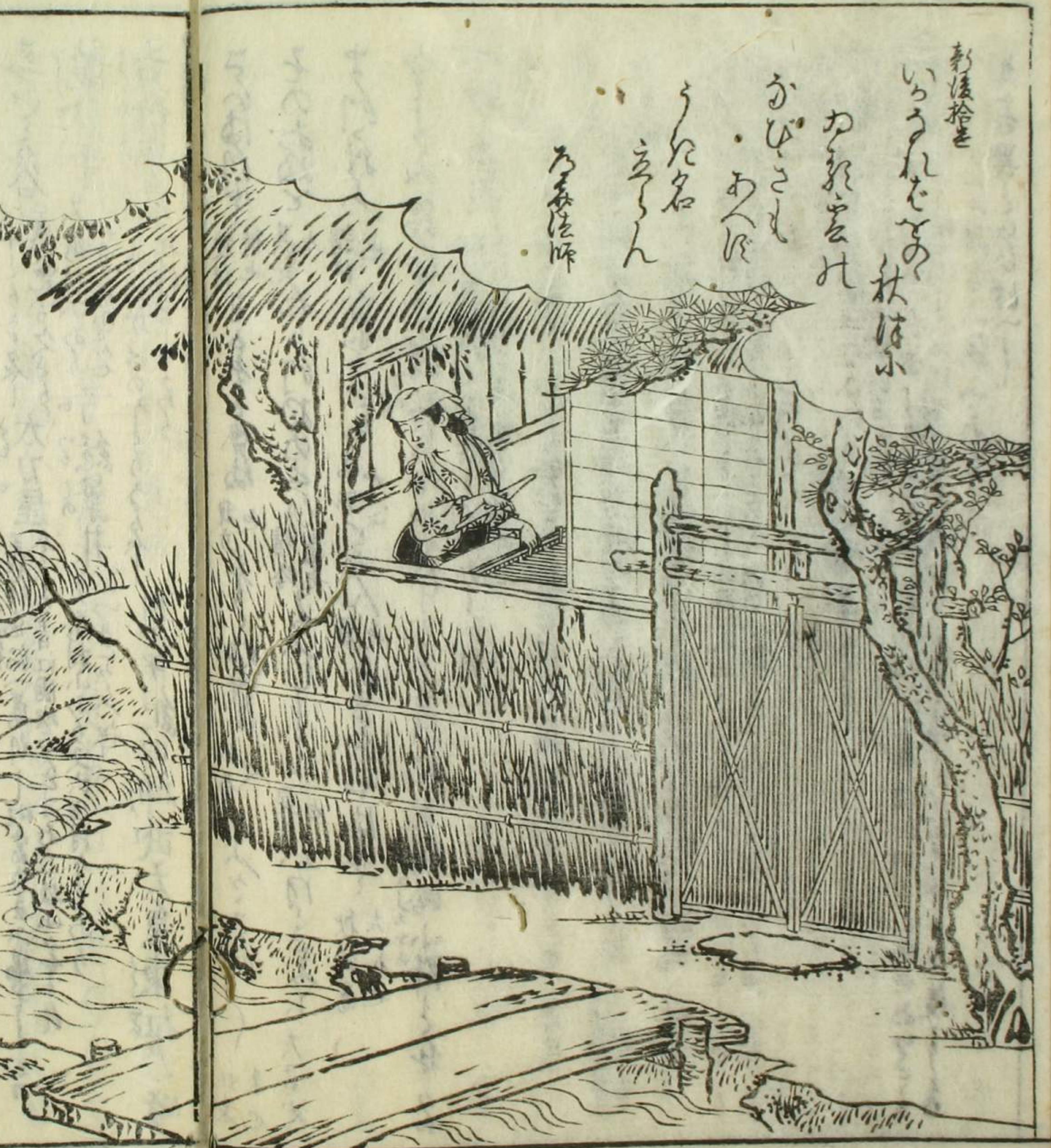
いとうれをあ秋は小

かゑるされ

かびこも

うた名
立さん

名義法師



大瀧 おおたき
名とも大瀧ともいふ。大川のべより
急流と水勢岩小觸 せんごく 漾 よ りあゆむのはひのさく
岩上より流落するあくびを岩向 いわむき が張 は ひ拂 ふ す。常観 じょうくわん

千々萬々の合
二芳郎の太刀やきの後にはまほりとお小刀とくもん 家達

・ 箭士よごろすよのあとも、いかみちるわれれわ
・ そ 遠山賢
・ 鎧山獄（めらひやうとく）あらはばのうへうりてがりく、義経けりをもあ竹とももじむ。
・ あらは
・ 金獄（きんごく）つこけ獄（獄：獄）よもくよろひとねご捨（す）くふよりがく名細や
・ あらは
・ 赤脚路記曰けやとり小義経吉郎爲（爲：爲）旅一絶（絶：絶）

大勝や出でまゐ小禮うけむかと小金多と
老びて名義記小豆ノ里 大刀屋 今小豆青江園次
アラシト 大勝村小豆り 云々 絃葉井 いづらふ詳
龍泉寺 二代家継小豆る
吉野皇居 舊址秋津のやうりうり今 日本紀曰神武天皇東征乃時

源波津小洗を経て射駒首城が越紀伊國と傳へる事
官軍と訓練して兵の定め其後應神天皇

御の宮よりおまへは
万葉集
大和王室
御製

同様株葉曰古跡宮と計代より海に水二首あり神武奉勅獻火の櫓原宮小
由ナム時古跡小離宮が御ゆく臨むわリトモ計代より神武乃
都守が御ゆくべ一昔不合尊の才也乃皇子也有
格代としらけもこそそぞりあり

御影石
ちへいせき
康正二年十二月二日赤松の賊徒南帝王が殺され逃げ
本邑の郷民大に勵み、京と連絡のため逆賊を殺す宮乃
浦夜甲曾は攫く神主
毎歲祭祀ふおこうくまうぢりぬ
御製
小丸井、神牌御製

のれそをかかへるの家の戸小門もありやうだとも
多古村小ゆり跡二流あつ高二十尺丈度大黒と云ふ
琵琶山高十五丈又此は裏裏と云ふ
坂村小ゆり由縁古跡耶。

釋迦岩窟

和田村小あり

國見山

深サ二十丈

笠生岩室

小あり

記

國見の山腹に所在し所と曰藏上人のこりて行ひ所と曰藏

雀院の御子みく

記

藏

裏

深

道

の後方所と構ふ寺小僧一後も

寺

小

入

玄

言

断念

と

冥士

小

あり

した

藏王菩薩金剛

家

の

降

七

日

を

走

る

所

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

寺

と

日

藏

本

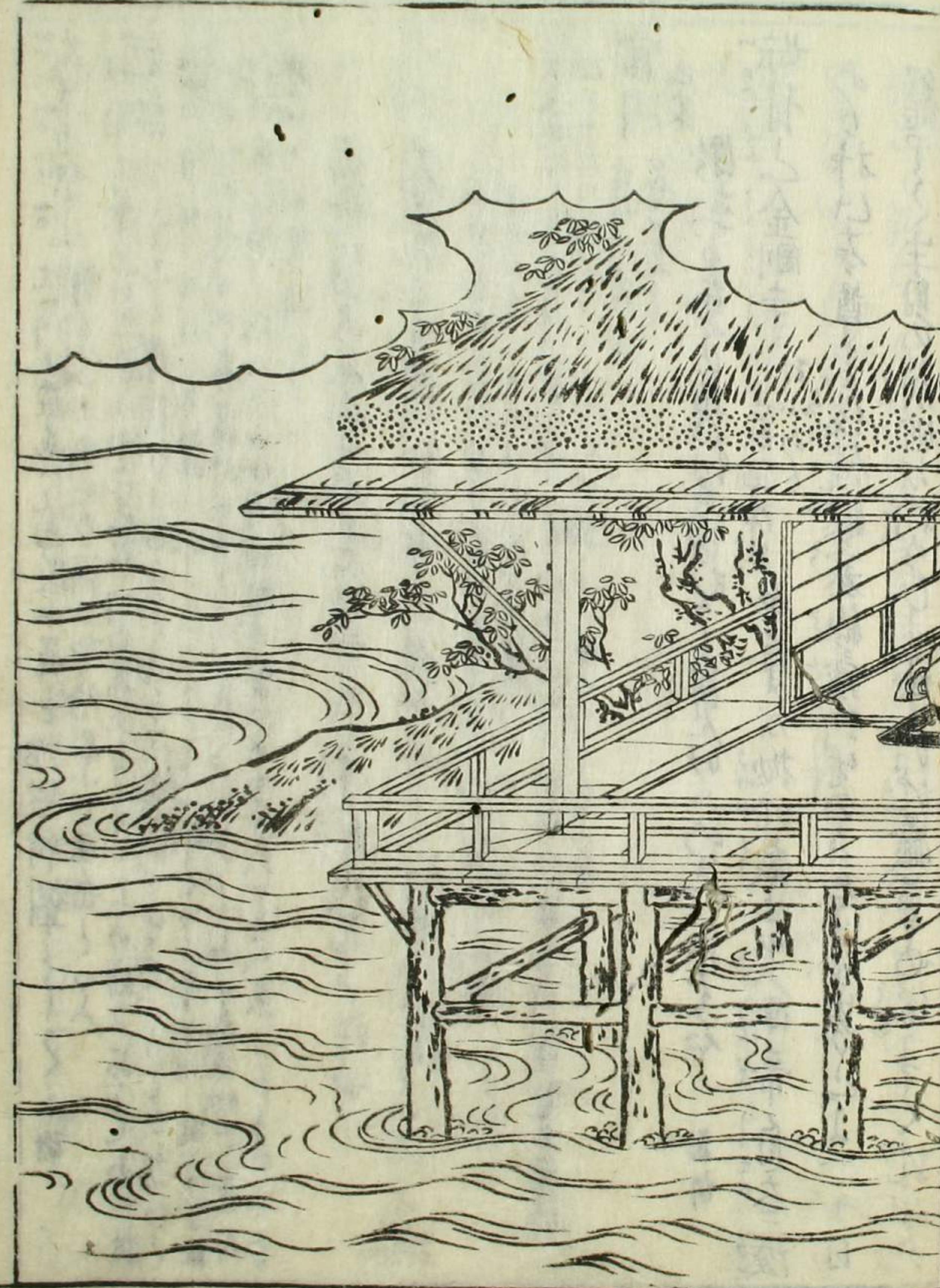
寺

と

日

藏

本



老翁のそなへがふとひし乃木萩燒をはゆ
大暮やうりよたのあま焼サルハセ乃宮

けあひをかひて定小載くあひは源とあり撰集に多く
後考ありべし又上の奇出未考
大和巡遊記曰大和原小巴と聞く人うなあひり若狭川熊野川右近の宮川
けこ大和のあひ上うりとてく虛詔く傳むくうなとせ

後考あつべ又上の奇出事名未考
史記曰大基原小巴山閑
人うれしあり若御川無也

勝ちゆゑの奥の宮川のむつへがけんひ事あり
妹背と金剛寺川上莊神谷
奈尊が拠地藏とし人南帝自天陵村小あたり
ありおけ奉尊より役優婆塞えふざ利生のくわ小金寺とよ一十日
龜山生身力毒座うるわ、ひ行いのなへい小寺こじも威儀いきの象ぞう

漏出一絲ひくが優婆塞の心小柔和忍辱の御おんじゆ末世
の底そこまで利益あらずやとくに地藏尊が掌てよりくから

おとこにしのむに止

鹽釜山より高サ數十丈
共小龍木村小わり
宝中少々重し
是故

珠玉纏珞の狀とす。是多一
紹鍾乳のるゝ都名所圖會拾遺
悲との亦小委く舞ば

あくね源窮^{スル}下流右那川小瀬通^ト

國 棚 莊 以上七村
國 棚 莊 と いふ
窪 塵 内 等子大
南 國 楠 郡 小村

國相是處は奏を是れ奉引の國相ノリヘ應和天皇聖九年十月
小吉新官小河寺あらへ時正極人多々一夜酒がまく遊どる也

クルヒトヒトの草薙がさとく哈ス蝦蟆が者小名とば毛蟲とあ
けく賞味ふとく含けるとひや吉野の上ふかく嶺あく
谷源うりけり所うしむ路さざくゆ多數小常小末朝モるる年
とき今ヤケル其後常小參く年魚ゆのものか取一ケル年や
今之國柄の奉とく奇が楓し筆がとれうらにと吉野トアリ
年始つま柔うとつ心うり云々又久くり

又延喜内式の御事も

源平感裏記曰吉野國柄とく舞人うり國柄の姓うり津乃家の
天皇大伴王子小龍衣と吉野の奥小籠と岩谷の中小志のび浦をけ
は小國柄の翁栗の御料小ウグヒといふ魚と奥と供御小使とする
朕帝位小上らば翁と供御と云石引んとの命主の御事の後大伴王子
公孫一御位小昂翁と吉野と云本元日の御祝を國柄乃
翁栗と相竹小鳳凰の装束が絶く舞とひ豊の明け五節ノモ
ヒ翁栗と栗の御料小ウクヒの魚とお翁と云浦祝小進御殿上

より國柄と云ゆの時の聲とく御着かずと御筆がゆく年也

け翁の春うね中よひ五節始るのふ

吉野の記曰太歲うり國柄へ一里あり御殿天皇は新へ進むをあう一乃
翁鮎の鮎公拂調使へ一小供拂の鮎りくわふ下ノアリ一ノ門下ノアリ
は君御代」出給で魚りさく人すとる」翁人少美中」もまちあととぞ
とくの翁が國柄の榜正と傳せられ
今小赤くすく榜正とく

吉野春國柄へて太内の御令小年がう人の御前よりむづく
すくぬくのからひをく

雅言

御垣原清足天皇おとす御垣原小年が御令
令よりてお翁本様へき放つの御垣原アリとすりほ
入道寺
玉葉

老の仲もまた御垣原とすとの御垣原とお嘗のとゑ
お氏

篠後撰

鷹狩撰

古里の刀を壇上に坐すとお翁とちくせ林の木

象音

ちりうろと吹ふるあん國柄の筆すとお翁とすとあり 大納言
御垣原清足天皇おとす御垣原小年が御令
令よりてお翁本様へき放つの御垣原アリとすりほ
入道寺
玉葉



萬象山嶺

窪坂内村の上方よりひ勢盤糸
との里名をハ、志津お云ひて小ちくねと云

出島のゆく一説ふ若狭

一筆力所の耳我嶺の時々をやむ方けりひまづを西へる
加賀直圓曰御山嶺てよ意すらひ写ふけとひのうちたんす。雍正トトロ
ノムアムン御金嵩カマツチととびりが源氏も倍小市トシナシ今昔あ若
年も莫食の多きよが事トトロ皇朝のもうつみど金のわくとざり。財トトロ
こうともくろんづりんわうん皆後人トトロりかくありひそり。一ゆふくと之
迫れば大和國のものちくらとの小耳我嶺が金牛の外にあり。せ
考トトロへり。一へ也。一へ比理のすきいみ。がよくある。と
金が埋トトロ。多く弥勒の出世が傳トトロとし。めきと。御の處トトロと。此中もこまき

國
橋
古
蒼
草
ト
下
小
流
中
小
水
同
ゆ
リ
村
の
上
方
小
ア
リ
峯
巒
疊
嶺
山
四
叶

丹波袖向 小村あわり小川莊七村の
氏社へ神宮寺あわり

行花
三者中のひよしとひよしのふたてねいく林風小そよぎのまゝ
新緑古今
ほどのよごて葉林風が御きぬの空と清乃すれどせよ
喚應院
まよ
大和の小刻と道の駿河より象のゆく事す
行家

名家小川 あ源青根山獻よりかくわ
外豪樹公廻
右御川入

支本
よのと青根を頬、月を不系の小川不玉をぬけ
知海

支本
櫻の名がねうる
さくらのやうる
櫻木神祠 在彷谷村
さくらぎじ 石井家

志野記曰 あまの宮と官能のやうと見え
ゆのつゝく縫出でてと題たがりせんじ
海の名ふれふうちのと綿縫うて櫻木乃宮

夏實の川乃の淀小鷦鷯を呼うと詠耳一
傳承三

秋の夜
中野喜実

ひきやうもんの川下波音

梓人納言
定房

和列傳記曰
官樹へ樹にあり波あたれ

大岩あり其向が

吉田門より之へ

お岩へ大さる岩

より出のえど

入方をもつて風

よそく風ぬ

お岩の呂川れ

廣きるをり

お岩の平野あり

おのづこにゆく

おとせらる水ま

津一長里

生人石起毛

者のかうり

水底へ入る

入る事の少

まればねま

おとく



卷之三

雄
官の跡もくと名ふもくはくりあらむの處のよどひけを法皇御
秋と小ゆゑと云ふ官跡のたれを泡ともりやまそん
後拾
官跡の滝れみとらひみんちみいわ乃ねやのさうと
と家集
跡がるを官跡川が滝れりを人の産れをもじんせきもろ
光祖
八道勢政
勢店
のうちの跡へかくと官跡や松のわら石乃く人せかくれね
お家

懷風藻曰
萬丈崇巖
宵成奔牛尋素濤
逆折流

三

添音招吟古山

友非于祿友賓是浪霞賓從歌臨水知長嘯樂山仁
梁前招吟古峽上簫聲新琴樽猶未遠明月照河濱
官廳のひやう

久しくも常ひ日坐むる所の事なりとわがまく小
千載
朝小うりやあらん月のほそいの原ふらうくうらう
載古今
もとよみれまうりむれはるまじの原不むとくうりぬくうり
未人

筆、槁宮游のすゝれ小柴橋、樋口の原、
あらそひくわく、小あり

新古今
みよしはたる事多きのを御うけとせんか之様去るより
新千葉

龍御門 宮殿の秋はの宮より
玉水龐官古 うるわしの秋はの宮より
名秦あめれ小豆ノ木
万葉と今 まことと

今をもや冰も解ぬ玉乃の勝の宮古すまゑりとゆん
光乃

多藝・ほしの内 奇枕曰大和屋
支本

豊國山
奇石多々 俗小梅の回り
下関村の路傍小
大森の浦 下關村
神明井あり

2

法皇帝勅

卷五

讀書記

法國良塚 今本村小あり御明天皇の皇塚

新漢南塚 月村小あり俗小天塚とて人黒彦皇子

今本寺 年久しく頽廢して今小堂あり

俗者國なづ寺小住持ひへ蓮入法師實弘年中初度ちよ多
親世君の靈爰が蒙てて小室アリハ夜く光ありあやへやにて
りく凡く小巖上小石板ありく藤索埋んとす苔生れたり
石面の敷葉からくひ又可ども弥勒ニ尊の像が彫はけたり
人の業小あくに則舊舍が建ててスルりとく経不

祥瑞ありく入寂トタリ

釋

藥水井

新之村小あり疫病除歎ノ水也

比叡寺

池田莊比曾村小あり

推古天皇二年四月淡路嶋の海中より附

い幡神祠

北莊七村の氏社也

捨頓半村小あり

聖德太子より御名を號ひ實ノ難古乃ゆく

入久々ねが法奇

トヤヒ奉トカヒトガ帝歎ヒナリ

く親君の像

トセ山寺小モトムル小时く光明が多か

くありトあり

書そと下り現光寺とあつけらとん王林苑

栗天寺

天台寺と割る額あり一は玉林苑小足下トカヒテ西太寺の

鳴天神祠

山田莊麻志口村小あり

椿井

麻志口

吉野水分神社

丹治村右水水分小坐トテ年くの供水小山殿と

神社がうに遷し文武帝二年四月神馬が御神小坐り雨が降り

ゆく伊豆紀小又トドリ海歲初其吉所と僧奉く社奉小

六春行幸の事のとお湯の神小坐りとまをせうか

丹治川

飯貝谷源く左丹治川小入

宇治向

千侯村

万承

宇治河と御風モテ旅みて夜をとて昧もありかく小長屋三



安騎郎

城下市一様の物もありと貰ひ日
吉野ふのやくわう

あらわす小宿の旅人をもとめ
東野（さんや） 岩城下（いわきした） 二村の小より言塵集白は東野の芳せの安騎の内（やまと）
藤枝物小妻妻（ふじわざむこめいめ） 妻（め）あせ同名ふんの小野ともよみ
東野の煙れ（えんれ） 一不^{（ふ）}まく^{（まく）} うく^{（うく）} うしと月（つき） かづく

吉妻郎の室みやまのの壁かべにと袖そで小走こしり賣う下さ處しよ
川かわ下しも市いち川かわ下しも入いりとともももくくれれんん源げん吉きち郎ろうとともりりううたた

下市名産餅鮓（さば） 鮓の形狀小細り故て人所とて其味羨（うらやま）し
諸邑（よしょ）より多く出（で）い

下布村アシタマ有
立興寺アツコウジ
下布村小あり弥陀の名號小乃ひ繪像
實如上人の裏書あり

土田川 有源畠登よりかうへ
笠木川 有源朝木嶺より流す
豈山石 黒瀬莊中戸村小あり方入支余

金
高
等
上
人
基
祐
勝
莊
德
庵
村
小
入
寂

鳥栖おとね。名庭村なむら小あり。一名
棲中おとねなか。中なかとし。

常學寺
黒瀬村
舍瀧
千尋の中小庵流と
常學寺
黒瀬村
多す上寺、
俗小よも本濟新

春日神祠
向加名生村ふわりは賀タムの里を後醍醐
句賀名生村小わら後醍醐寺

金國寺 造立
後醍醐天皇居 加名生莊和田村小ゆり
楠氏寄進

丹生とあり
丹生織丹生有織り織縫也
丹生織丹生有織り織縫也
余文
丹生川宇多郡

1
詠歌
名義
水の金を丹まわね
舟雨小舟はの月夜のね
あまくらめく乃とふ

丹生川上神社 丹生村小あり近隣四村の氏神也。又神國象女神也。

神名社二代冥派出

伊莊典尊柯過祖のより下やうれくかひぬ其のりをとく。終人

の向小土作植と船あそび水神國象。日本天武天皇白風

御の御詠み。社小兩がと霧雨がやらざるをさすの勅使そぞれ

の而危ふアソブ神武天皇の御宇小兄磯城といへ賊ありけり

帝是が巡詣せんと牛牧巖食とくと丹生の川上小の石りアリ

天神丸神とぞひすいアリ。日本紀小兄弟アリ

丹生寺

丹生村櫛岳別不村善徳寺。別不村小安瀬了彌の墓也。

白銀嶺

古田莊夜中村小あり銀嶺。南ノ一金の嶺ト小ふす。

波寶神社

銀の峯あり今神嶽宮と称。古田莊十二村の氏神也。神名社二代冥派出

檜の迫川

み源檜の迫の名也。

立川渡呪

神祠立川渡村小あり今天王と称。立川渡村

乘鞍山

立川莊和田村小あり。其形鞍小仰。

鷹巣

立川莊和田村小あり。山高くそび。樹木森々。鷹の巣あり。故小

立川渡呪

神祠立川渡村小あり。立和宮と称。立川渡村

白瀑布

天川莊和田村小あり。中少勝あり。九丈。白瀑布。あや村小あり。

伊波多神社

和田村小あり。今立和宮と称。和田二村の氏神也。

稻邑嶽

天川莊和田村の神也。奇觀あり。

朝鮮嶽

稻邑嶽の近傍。小山也。上に樹木茂盛あり。

天川

名水あり。水深と上に岩壁あり。流急く。下に小清水とす。

龍泉寺

洞窟あり。水深あり。上の人々多くて。清泉あり。

燈籠洞

洞内小あり。水深あり。數百步。内に水あり。小舟とす。

龍泉寺

玉竹人泉勝通。龍泉寺のあ小佛出。上方乃溢人多く。

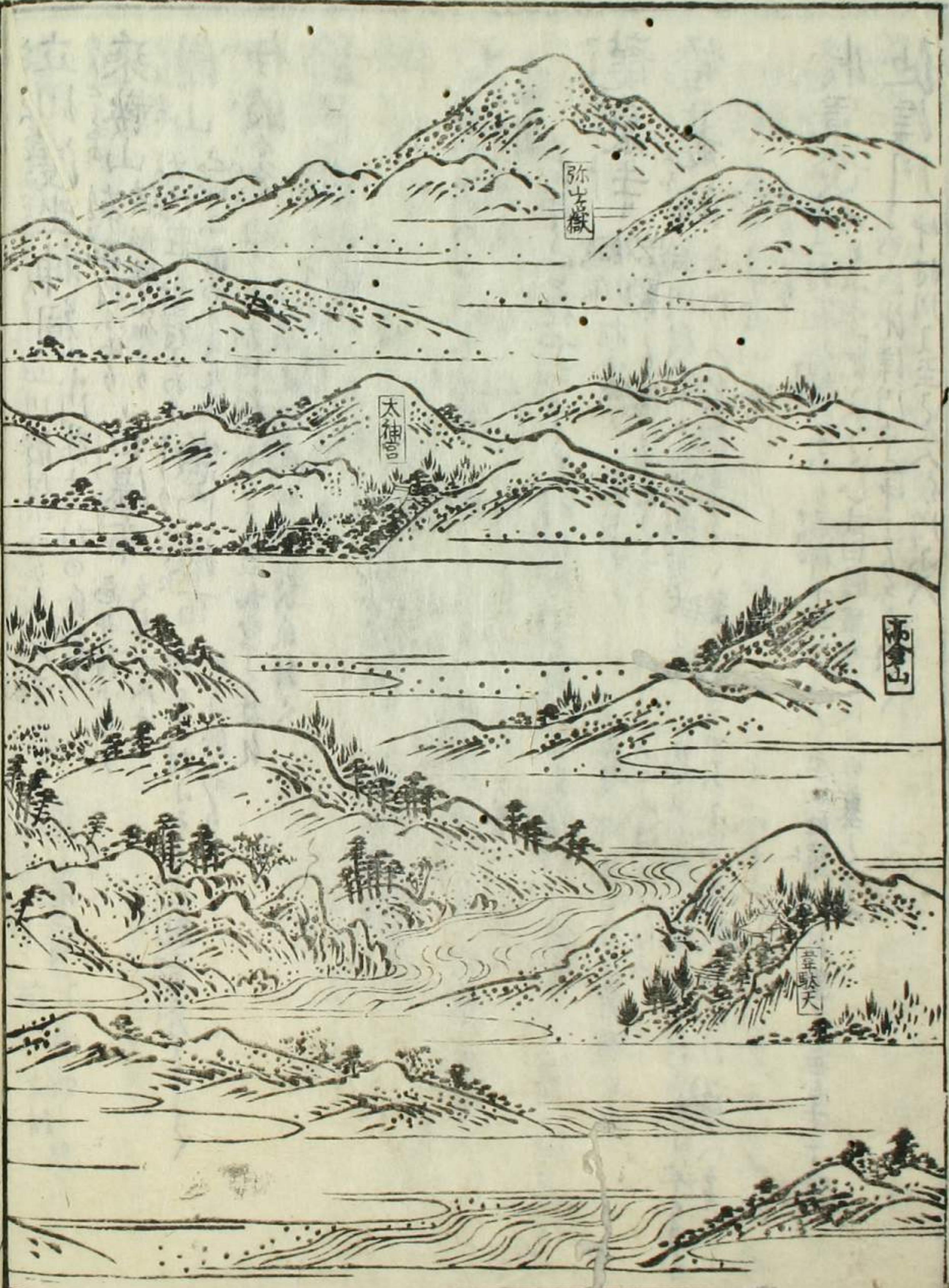
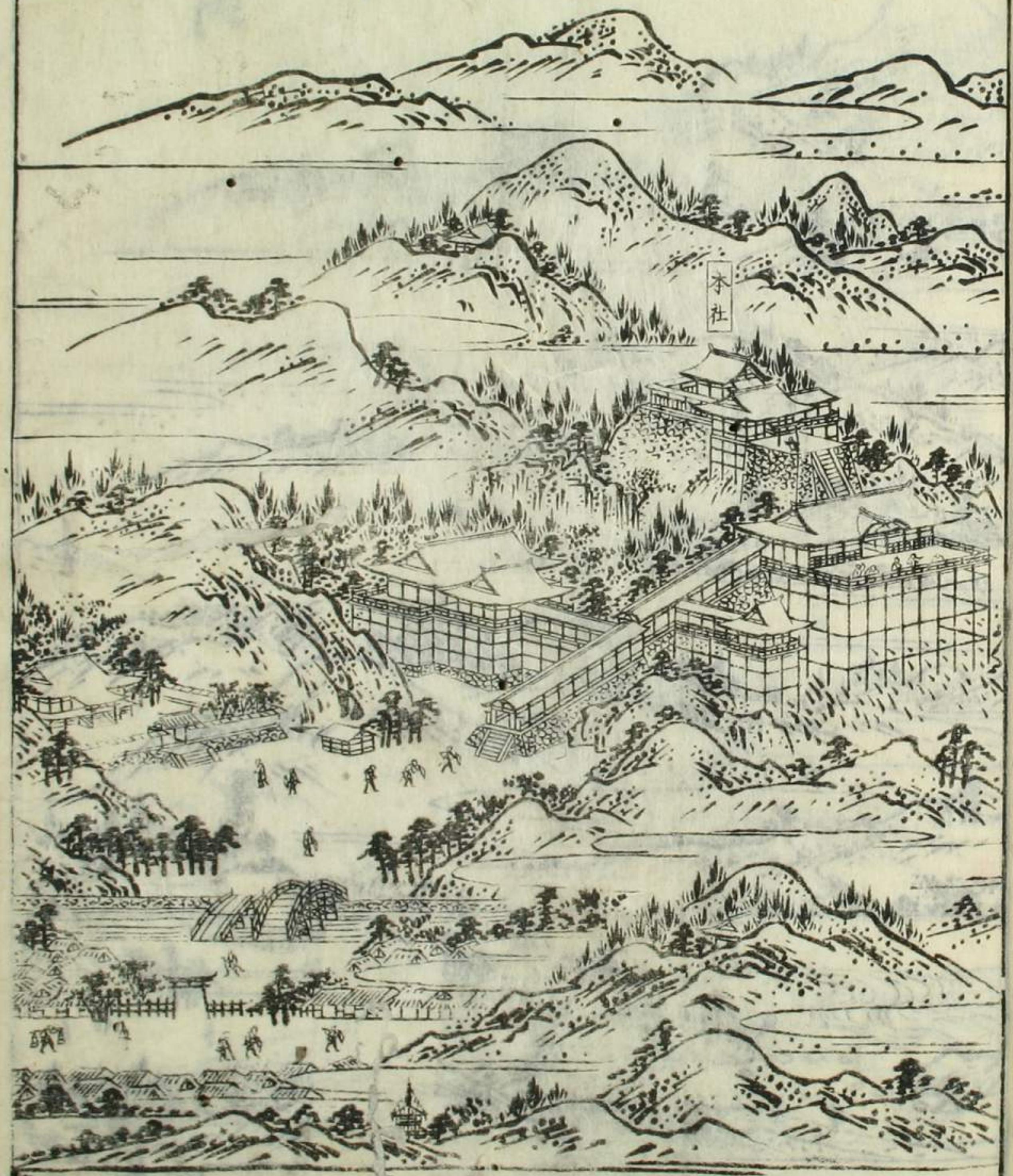
將軍塚

十二村莊北侯村小あり。石碑十三あり。左方に羅刹。里人毎年十月六日小祭祀。或曰將軍陸良王の墓。或曰將軍陸良王の墓。

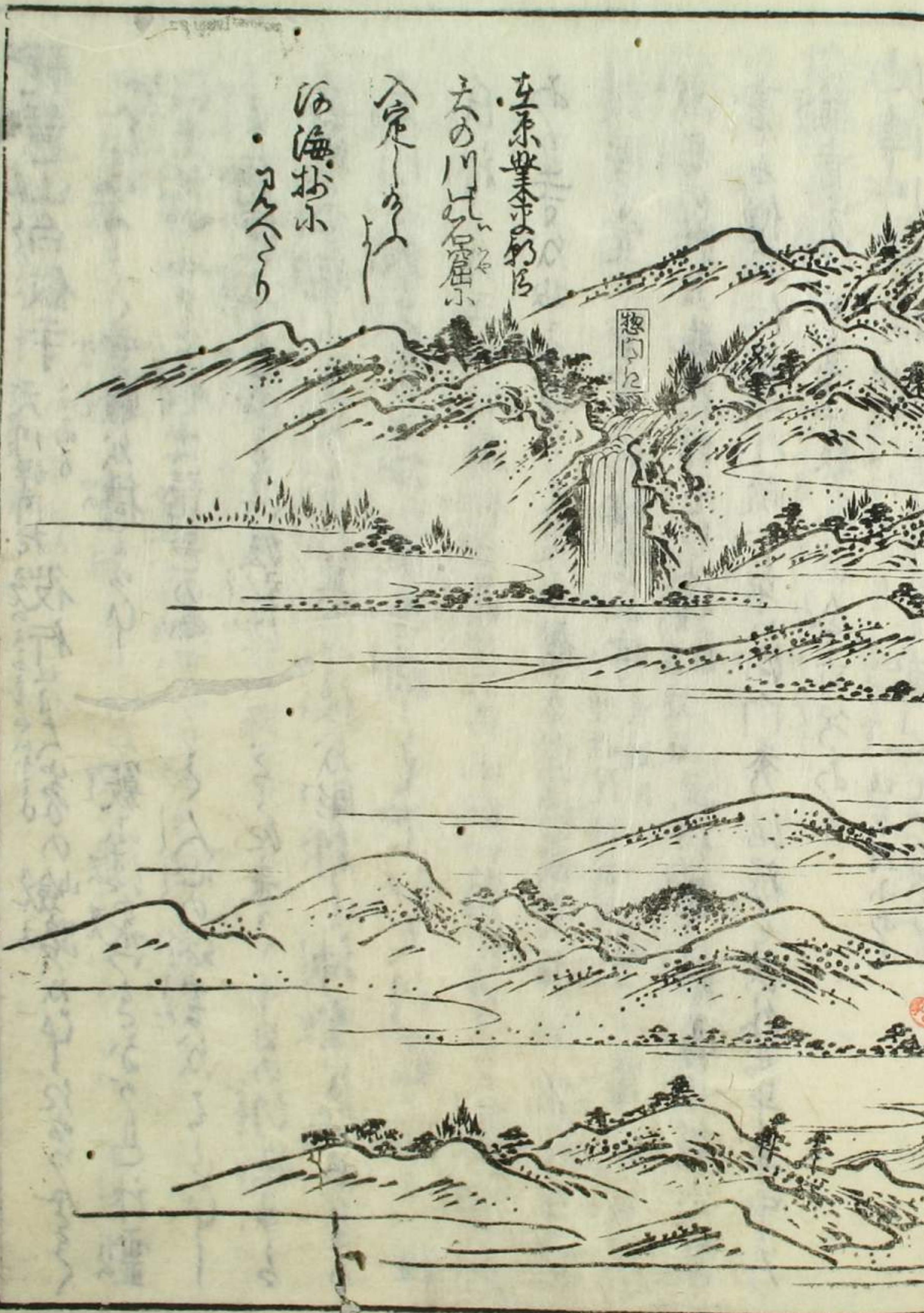
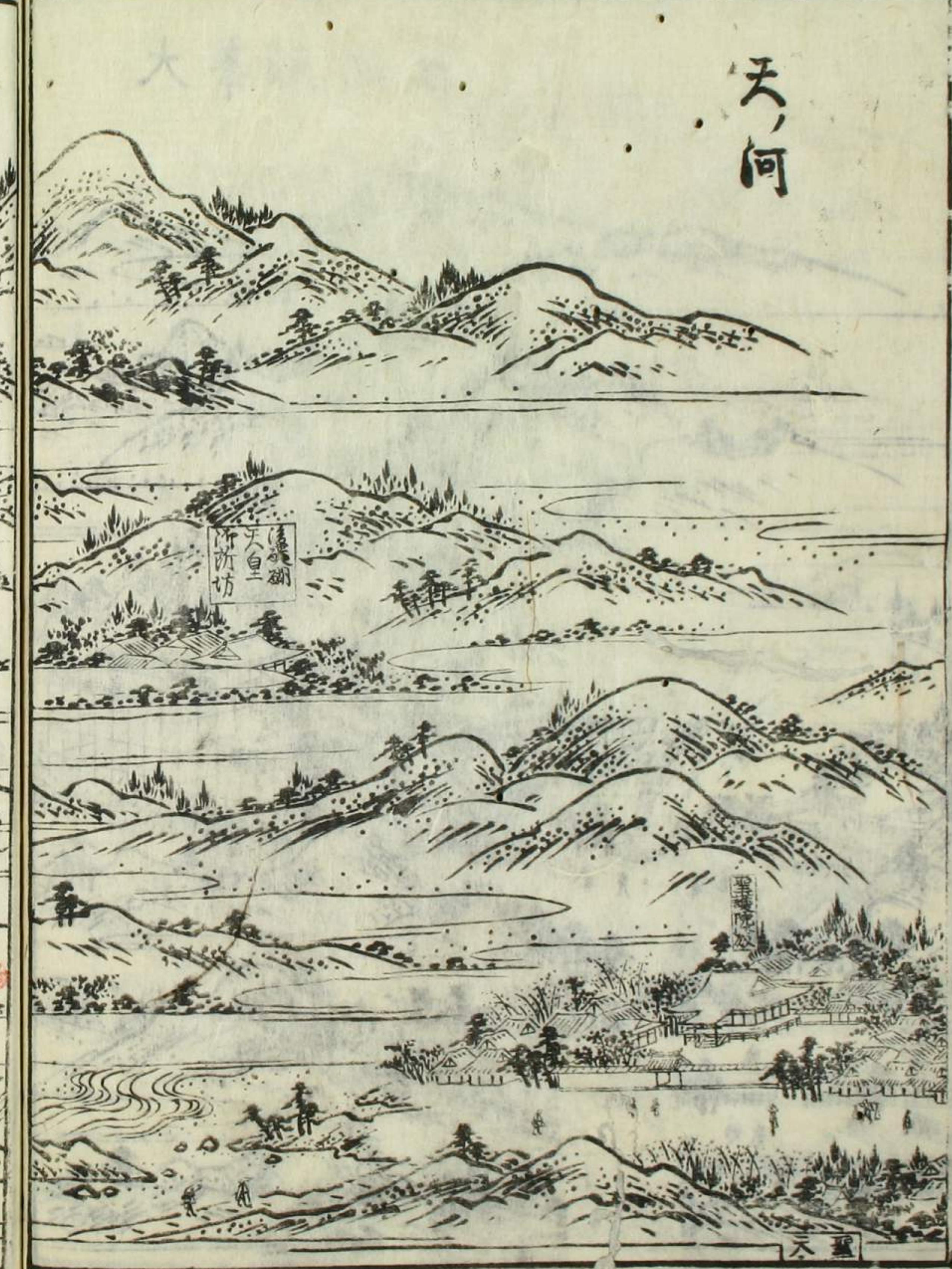
池津川

中は川至く大侯川小入。

大峯天河社



天河



琵琶山白飯寺

天保十一年内役行者大峯の嶮路より

名付とみく靈驗公禱であり小岩窓小活水とふが
田光公やくと廟も琵琶の響ひく人心の迷まがふ

より琵琶と號せり其後弘法大師に來く千日

毎歲天女現

天川毎歲天足之又宗像神祠と崇む天川莊

氏神正殿并殿御厨所十二の小祠四箇の怪石ニ

あり寺分母老院とも號を觀音堂地藏堂藥師堂

護摩堂二重寶塔僧舍ニ宇

理性院神福寺未迎院わたり又護

寓居の所が御所坊といふ則末途院又什寶蘇悉地

書と僧正仁海之化疏一章は門秀海源と其外正平
綸貞元中九年中務卿の令旨等あり

比津川神祠比津村小あり乾山紀別の思あり

小壺山

比津川紫園二村の上方小あり一名金山又高止

荒神岳

北侯比津村の鬼小あり

藥師堂

十二村莊堂平村玉置川ゑ源玉置の山中よりかく

四新明神祠

比津川莊折立村一座あり小原村一座あり

玉置

神祠玉置山小あり舊事紀曰紀伊國忌那遠祖乎帆置員

玉置

正殿若宮白山社稻荷祠本社佛堂神樂殿あり

七面

御山の舟川莊篠原村の東小あり

玉置

山井川村北里小あり數懸森強

十津川

名水うり天の川の下流こよね村が経く

玉置内坐神社

西川谷十村の

手中乃

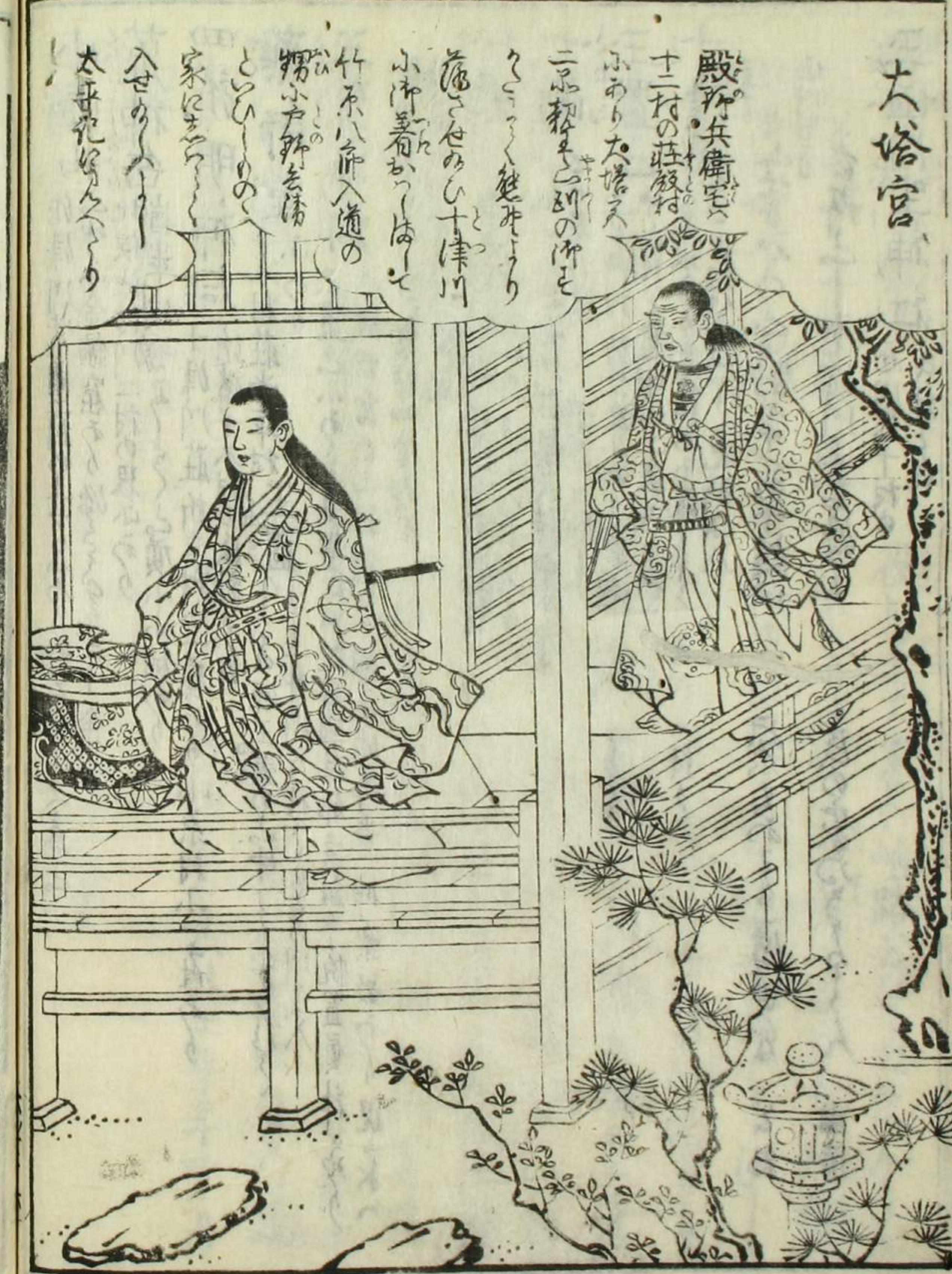
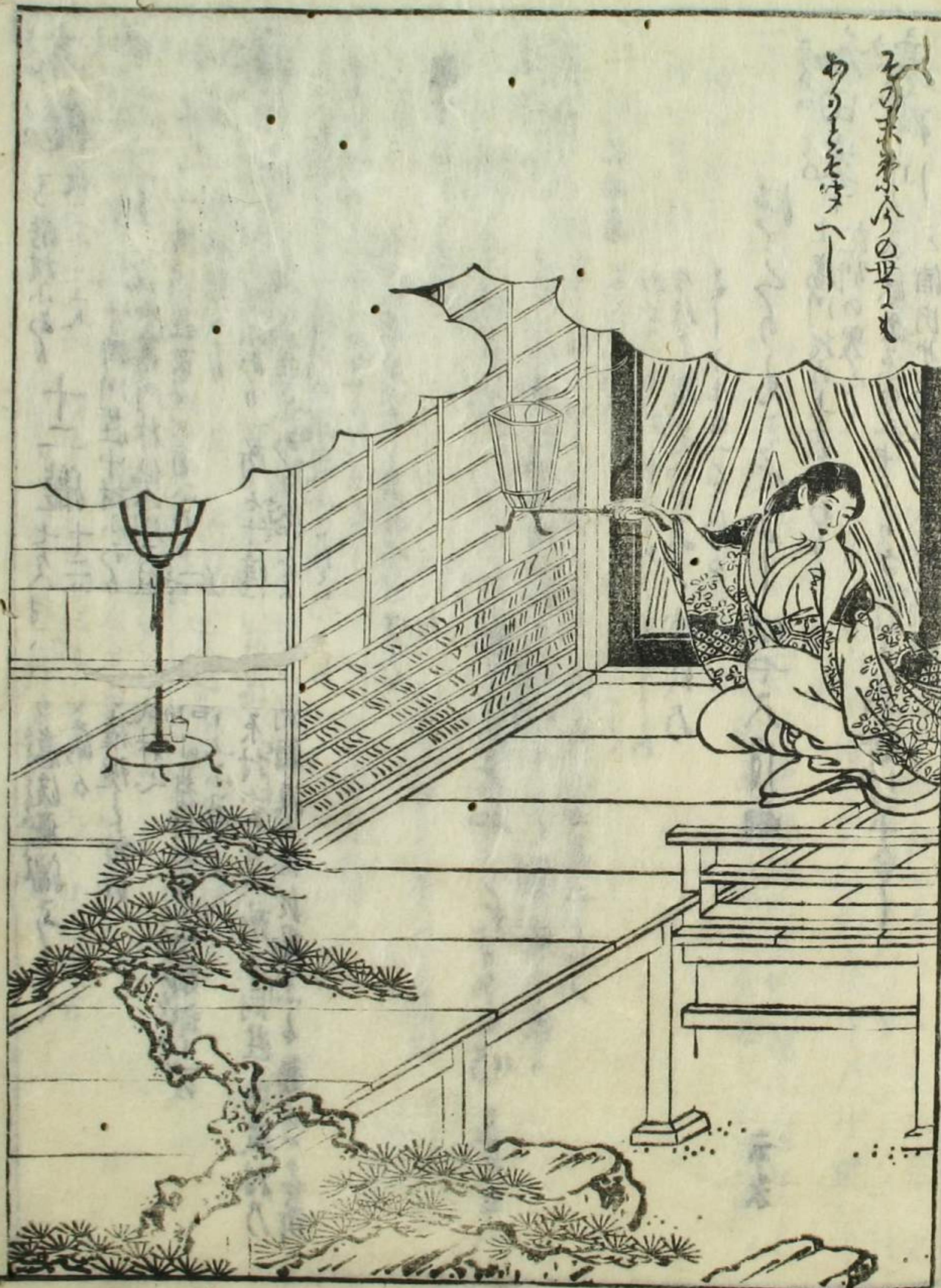
良親王

経乃跋

大塔宮

殿。兵衛宅
十二村の莊屋
小守り太郎
二郎君もこの御を

きこへて御をより
庵。せぬい十津川
小浦着かうへはよ
竹居八郎入道の
甥。小平吉清
とひしの
家にまつ
入せりふ
太平丸守くわり



吉龜よしつる う勝村かとうむら 小あり 十二龜じゅうにつる
長なが二十二丈じゅうにじょう 七夕村たなばたむら 小あり 急流きりゅう 飛湍ひせん あり
十二曲じゅうにく あり へゆる

十二曲ありくらしく
中村坐神社 十津川莊中村小より今主み権現と称
中葛川神社小川主藤多氏神之

丁者高小森村あり

小松と十津川莊葛川の南小みり行者萬小森村ありと巔部の流別界あり高上小々々々々

東泉寺小屋
千葉川の温泉小屋

室の温泉と云ふ所は、田の温泉と云ふ所

王集

湯の原小嶋芦ノ川へつぶことく嫁ふとくとく
無終と終かぬとく支別ありく度跡と太見ことく
泊船集大和記伊のさうひもとす一坂

往來の祝札がとくらへ奉加す。わ
夕ねも相足つてみづか紙乃
はく小井もつみあら

云
来

和田峯
上陽の上方小野
死別の歌
まつりの歌
あらわの歌
草履の歌

之浦內少分許三十津川小入

白龍山寶泉寺

當院の東小わり又小歟あり高サ二十余丈

王住の龍川寺うなづ碑あり當主
神位康正三主丁丑十二月二日又遺教經

跋曰寶德二年庚午之秋建
辛賴莊司宅址
九月朔日

草拂莊言牛仙小あり
竹原ノ席宅谷原村小あり大嘗宮護良親王之代

○ 横濱川供りけりとせ
○ 北川一名北之川と云東川爲川考此小河一并此の属也
○ 小井の又成多見川入

佐田川 お嫁先家と申すより偏く 佐田奈原丈里が終了

葛川溪 あらかわせ

安曾川の入
河と小至く安曾川の入
水あ源北より流る紀州出又
神山屬是安房に入り

安房のとみと今一画界が、ゆり竹筒ねが遍く人を引く
柳本居、業畠村小より
蜀本梁、小川村小より溪中の處々小

上行下度俱小汎原村小

東門分濟也
竹筒村小海也

上卷
毎年四月八日

より九月八日まくは人宿

そらの日ゑに家みとひ

塗窟かすれ幕安宿

うふ上まく六里あり

六月のほんがふ當よア

修驗道のト伏入峯に

峯中に二千八十竹の

岩窟あり檜崎窟

聖天窟菊窟筆窟

偏福窟ゆくハ太

ゆり端福窟ハ源

えの二町余窟の

廣さとすり

奥に池あり

菊窟と乃

器

とく

瀧川

み源釋迦岳よりかづく

蘆原川

十津川に入

瀧川

み源地藏岳よりかづく

瀧川

十津川入り

瀧川

十津川入り

瀧川

十津川入り

瀧川

十津川入り

二ノ浦坐神社
神社
氏社
西坐神祠
瀧尾新宮と称す
西
英精山
瀧原村小ありとの形巖城とて紀州の覆へ

瀧川
み源釋迦岳よりかづく
蘆原川
十津川入り

瀧川

み源地藏岳よりかづく

蘆原川

十津川入り

瀧川

十津川入り

瀧川

十津川入り

瀧川

十津川入り

瀧川

十津川入り

天神祠
二座あり一社も引出村小あり宇井傍み多の氏社
伯母子嶺
今ゑ村の東小あり十津川莊君堂平殿御衣若翁の氏社
御吉井村名の
瀧尾坐神社
國王宮と称す大川莊
氏社
英精山
瀧原村小あり園名とひ
大瀧あい小瀧あい泉小木小あり園名とひ
芊宿
瀧原村小木水を寄り此路を嶺
と
崎坐神社
氏社
天正四年七月十二日奉
寶藏寺
十津川莊立石供村小あり
平維盛
平維盛の建立と
盛塚
十津川立石供村小あり吉田一日壽永年中乱
佐久向信盛
十津川莊武藏村光明寺小あり石碑
と





白屋嶽白屋村方言高原高原村方言
備後北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
出谷川北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
西川北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
小井龍北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
備後川北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
憩息石北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
池峯池北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
河津國王神祠北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
林泉寺北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
異像龕北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊
水分神祠北山莊北山莊合村あり北山莊鬼と頃險峻北山莊

山上山嶽太和志自吉野山より南六里、洞川の東南小あり、高峻あり、霜雪嚴。頂小峰利あり其ありて路險峻大天上小エ上乃一峯。踰ヒテ之今宿の茶店あり。多古村洞辺の茶店あり。洞川村属多古村洞辺の茶店あり。ト大鞍掛多古村洞辺の茶店。小鞍掛多古村洞辺の茶店。二坂分度多古村洞辺の茶店。鐘懸岩西臨岩が主と云ふ。至ト、魏カツくト梵閣カツあり。本尊藏王權現役優婆塞カツ安西派カツ。又古鐘カツあり。舊拂もかく堂の鐘。小石入主カツ。其名カツ小白遠カツ國カツ。佑那耶田莊長福寺大慶六年七月二日之立

大峯カツ

金葉

と御カツと小峯カツとゆりと櫻花カツより外カツある人カツかト。傍正カツ。

船カツ一カツりカツ。

王葉

時カツあカツ外カツの名カツ晴カツすカツのカツり峯カツ乃月カツかけ 傍正カツ。

二面カツ巨巖カツタカツくカツ南カツ小カツ涌出カツ岩カツとカツ行く東北カツ小カツ門カツ儀カツ門カツ城カツと號カツ。飛石東臨岩行道カツ岩屏風カツ岩カツあり。西カツの方カツ櫛邑カツ。小壁カツ僧舍カツ六區カツあり。右所カツのカツ僧カツ小安居カツと入東行カツ一里カツ。

又カツ小カツ猿カツとカツ人カツ至カツ行者カツ堂カツ聖寶カツ堂カツ護摩カツのカツ石壇カツ大カツ黒カツ石窟カツあり。

王葉集

小猿カツのカツありとカツよカツ。

王葉集

又カツ小カツ猿カツのカツ病カツ小カツちカツやカツそカツりカツをカツ染カツのカツ社カツあり。

王葉集

又カツ小カツ猿カツのカツ病カツ小カツちカツやカツそカツりカツをカツ染カツのカツ社カツあり。

又カツ東カツのカツ一里カツとカツ小カツ普賢カツ岳カツとカツ人カツ至カツ一里カツ御カツ山カツとカツ人カツ至カツ五里カツとカツ人カツ置カツ。釋迦カツ岳カツとカツ人カツ至カツ五里カツ御カツ山カツとカツ人カツ至カツ五里カツ御カツ山カツとカツ人カツ置カツ。

行者カツ人カツとカツありカツ。人カツとカツありカツ。人カツとカツありカツ。

基カツのカツとカツ人カツとカツ風カツとカツ人カツとカツ。

王葉集

屢カツ風カツとカツ人カツとカツ者カツとカツ見カツとカツ風カツとカツ。

王葉集

山家集

大半の状況と大同小異
日本よりみれば

ぬのれと小佐々川口を過ぎて、黒坂を経て御嶽山へあり
御山より山上嶽ありありありありありありありありあり
巔ありありありありありありありありありありありあり
所謂御嶽神仙とりえり、御山より又御山より
南の山田多小大日岳あり又其南一里を通りりと小沈宿と
いふあり平地宿あり又と里あり小あたり足より二十町有小至き
轉法輪岳と云ふ又二里十六町が半山ひど佑院过大善宿か

足が筋と天狗岳小至内
小止とヤモリ止
山家集

6

集
櫛の月夜がありて光る

山家集

寛政元年正月
大藏院

大狗岳よりあのへ一里多
小七藏岳あり其あ二十七町
東岸

出とさへくはあり是より東南十八町りも半樟年小至る一名
仙嶽といふをよ笠撫といふもさうござん燒捨といふはどりがり
く名とまづいとてよあひのやうと里二十町古屋宿あり其南
一里十四町分踰とぞれ物資小至り其あひのやうが經尾といふ
又ああ二十五町分ゆけと土室岳ふりとアモス西あ五町分をと
玉置権現立

• 3

集
かくりえのすゝみ精人ち、さあむかふそよぎり あら

山家集

拾鬼の事
「芳野や妹捨のとはまかせとて、アラモトもいゆ。」
内署 定家

世說白

嵩山の北小窟より晋人に

ひさう十日もくらみて室に
明とこく盃のぬ一時に

幕を囲ひの老翁二人
あり晋人に一盞の酒莫

と進ひ忽蜀中にゆくよ
年一十九始下小ゆる

又張華といふ人ねぐ
はく所謂化館へ

飲くるものへ
玉泉吟へ

うりのいと
龍穴の石韻

うり歌へ
長壽うりとぞ
我禪の山巒の

山石窟もくらら



山藏王權現と後優婆塞金塔より一千日龕より生身の薩摩が
いのう経りては藏尊の像は中より洞出たり是優婆塞の佛は
叶ひぬとれどもは藏菩薩と高麗國大師小龕をかしら其後
大勢忿怒の像があつて右の拂ふとこ鉢が小さく臂がいそげ
左の拂ふと左指なり而て右腰がおとへ給へ一観大いに魔
障隠体の相があつてお膝立ちにて天地の經緯があつて

つけは人皇共九代宣化天皇紀ニ年小あを優婆塞の拂整半立方
さりうるひ八十童子涌出わざ其ハ童子が大者を小眞あり

第一 捲增童子

阿闍佛岳跡
在禪師宿

第二 後世童子

帝相佛岳跡
在多輪窟

第三 虚室童子

虛空住佛岳跡
在瑩山岩屋

第四 劍光童子

帝子音王佛岳跡
在深山

第五 惡除童子

毘沙陀佛岳跡
在玉表窟

第六 杏精童子

多摩羅跋栴檀佛岳跡
在吹歎窟

第七 慈悲童子

雲自在佛岳跡
在水飲

第八 除魔童子

寂迦牟尼佛岳跡
在深山

第九 大童子が葛城の事

西蕃曼陀羅拓

又七大童子が葛城の事

西蕃曼陀羅拓

第十 七千余座の利生の事

西蕃曼陀羅拓

亦無二の靈驗あり

太平記

それより尊像が錦帳の中へ繰りと其涌出の癖が極んでゐる
優婆塞と天帝帝天皇とそのよづて二尊が化してゐる
安坐一尊は惡愛が六百余列小龕にて體が是以此が
賞無れど千世爾小あつて人云懶一也が利一也作明
燈迹がくく七千余座の利生のあつてから爲めどもく益一
亦無二の靈驗あり

後優婆塞と天帝帝天皇と高賀氏うり
舒明天皇六年小出誕一也が若年一也ひくそむく佛道を啟
一也年十二才の時かづいたる岩窟小龕で藤が夜一也乃ち
くひもとのとく孔雀明王の咒が後く五色のまぶす化して遊
行くの鬼がトコ水本が水をきつて小龕へ化して遊
てかづいたる石橋がけんとす一言主神が丸縫一其四乃
勝累入く龍樹大士とあつてひふとくとくひまくねふべ

紙墨かみもあびひりて
御小入武天皇むこうの寶元年ぼうげん正月七日壽鑑
卒そつ人じん母め母めが死死入竹いりたけの事ことは少すくなり
後のち之のちの事ことを多おほく道昭みちあき法師ぼうしと
一ひととむしきぐら虎こ小達わその中なか
通とおと少すくなく師し鍊れん和尚がく是これがけば
釋言しやくごん乃の西に卷まきあ
未ま臨りんありて人じんの事ことは少すくなり
化か人じんあきらゆあきらゆ水鏡みずきょう小入いり不ふ人じん寶元年ぼうげん入定りやうト
今寛政二年かんせい小至ご千九十余よ年ねん尔ある

支大寺ノ役優波安塞モトヨシヒタケル事ニテ
中絶トムトム通称ハセ荆棘のトモヤマクアリヘ
僧正ハシムルサマシタシテシテシテシテ
山谷靈岳ハ室シテシテシテシテ
之吉野より出立シトモリ一又御内山より奈半利町
之又御内山より出立シトモリ是聖堂ノ御ノヒタケル事也

大和名所圖會後



佩蘭清先生責序其文曰山跡留
其從人皇之肇代鎮都久矣
蓋難之也盡而功名之人傑不寡
古今云乎也盡其立之山祀
寶祚九五之福護四社之廟后宮
八子之君端之矣至人傑者
首吉備反仲曹之革而往之無豫
詒堂回天府之固哉
高京累新

都而一而五百有餘京也故名區
勝蹟頗多矣或詠於和歌或咏於
詩賦亦多可舉而計矣然延寶中
村氏著和州舊跡幽考又近頃藤
島言訣撰大知名勝志而僅之今
許而沒矣予近亦著都名取圖會
前後之兩編序而圖之甚芳
容而告於予彼島言之遺志迺得
手草稿而以撰大知名取圖會七

桿迦嶽御山のあ五里一名轉法輪岳郡内の諸山より最高
雄峻遠く眺めは石碑状基石分布

善鬼里北山莊十五村の内うち北山莊十三村の内うち

東不吉城肉小うちへ布と當山御入峯乃時は里不

1 終

屬風巖善鬼村小あり遠く眺めは象耳山とよばれ

善鬼川たどり家集の御町ある小河へより源釋迦嶽からかづく善鬼が經て白川の屬

藍尼人物志の其一人より齒固

セアリ金孝の英名の號めく藏王権現の靈域うそとを女人が
のほりわらわび我女がくわいひがくわいひの道小やけ忽雷電霹靂
通海がくわいの其訴ゆく枝が捨てたり名々其枝枝多く
太木とう木ス冠々呼く龍がくひ昂其龜小氣して居
一りとも至りく龍ももみえうねる都藍尼つゞきと

いりて巖がるをのぞく厚み又跡れまをやうどく微
多龍を出尔入紀也多其事其後多所云々

文和名所圖會卷之六 大尾

